

浄泉寺報

第42号
2025年
秋彼岸



彼岸会に想うこと

浄泉寺住職 望月廣三

どうして彼岸(かの世。悟りの世界)と此岸(この世。迷いの世界)との距離が十萬億(仏土もあるのでしょうか。想像もできない遠い長い距離です。しかし考えてみると、迷いを出る(解脱)することはとても困難であることを知るとその長い距離が理解できそうです。

私たち凡夫の弱点は、自分は迷

妄の存在であるという事実、気づくことに暗いことです。それは「煩惱のせい」ですが、この事実が目覚めることが、難儀の中の難儀だ、と親鸞聖人は教えられました。それにしてもなぜ難儀なのか、です。煩惱の「せい」だとしても、そうなる理由があるはずで、そして、その理由こそが彼岸と此岸の距離「十萬億」ではないかと。それは信じようとしても信じきれない、信じたらどんなに楽になるだろう、と思っても信じきれない、そのおもしろさが「十萬億」ではないか、と考えられるのです。そうすると「十萬億」という途方もない距離が救いになるのではないかと…。つまり、信じきれない自分であることを知らされて、新しい人生、新しい自分に出会えるのではないのでしょうか。救いは本当の自分に出会うことなのです。

浄泉寺からのお知らせ

● 報恩講 ●

十二月十三・十四日の報恩講の詳しいご案内は、後日お葉書にてお送りします。真宗門徒にとって一年で最も大切な法要です。ぜひお参りください。

● 同朋会 (月例法座) ●

浄泉寺では、毎月お勤めと住職の法話を中心にした同朋会を開催しています。どなたでもお気軽にご参加いただけますので、ぜひお越しください。

・ 若坊守のひとりごと ・

お彼岸という「彼の岸」が浄土なら、今いる私たちの「この岸」からどれだけ遠いところにあるのだろうか。死んだら行けるのか。そこはどうやって目指せばいいのか…。

先に亡くなった人は彼の岸にいるのだろうか。おーいと手を振れば、おーいと呼び返してくれるのだろうか。自分はまだ死にたく

ないから、突然迎えに来られても困るけど…。

できるならお浄土に行きたい。大往生と言われる人生でありたい。でも往生とは何だろう。苦しまずに死ぬこと？お浄土ってどんな所だろう…。

そんなことを思っただけの岸を見る時、彼の岸から私たちは見られています。亡くなった人は諸仏となり、大切なことを私たちに伝え続けています。「そんな遠くばかり見ていないで、今、自分の立つ場所を知らない」「深い迷いの身を生きるあなたが迷いの身のままに生きていける教えが、今聞こえていないか」と。

「死を生きる私」という身の事実や、自分の思い通りに生きたいという執着心や、お彼岸を「縁にまた教えられています」。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

お内仏（仏壇）に座る ④ ～「回向」ということ～

わかりやすくいってしまえば、「彼岸」とは向こうの岸、つまり仏さまの世界で、「此岸」とはこちらの岸、すなわち私たちが生きる娑婆世界です。「あっち」と言う時には、必ず「こっち」があり、あちらの岸がなければこちらの岸と言うこともない、逆にこちらの岸といわなければ、あちらの岸もありません。つまり、仏さまの世界と私たちの娑婆とは、その間に大きな川を隔てながら、お互いに欠かすことのできないもの同志という関係です。仏さまがいなければ私はなく、私がいなければ仏さまもいない、そのような合わせ鏡のような関係です。



ガンジス川（インド）沐浴の様子

「私にはまだ信心が足りないので、仏さまなんて信じることができません」とおっしゃる方によく出あいます。しかし、私が信じるか信じないか、そんなことには関係なく、「私」という時には、私だけで「私」は成り立ちません。私の存在を「私」たらしめる「仏さま」という大きなはたらきが、必ずそこにはあります。これを「回向」といいます。他宗では、「回向をお願いします」という形で、僧侶にお経を読んでもらって功德を積んで仏さまに施す（ご先祖様に差し向ける）、という考え方があります。しかし、ひとたび「他力」という仏さまのはたらきに照らされてみると、我々が積み上げる功德には何の力もありません。自分の力を頼みにした功德など、いともたやすく崩れます。むしろ、どこまでも仏さまの世界から、あてにならないありのままの「私」の姿を知らされるだけです。これを「他力回向」といいます。親鸞聖人の師である法然上人は、このことを「如来よりたまわりたる信心」とおっしゃいました。仏さまからいただいた信心ですから、「私はあの人より信心がある」と誇ったり、「私はあの人より信心が足りない」と卑下したりなどと、「私」に決められる信心の深さではないのです。私が信じようが信じまいが、仏さまからすでにして私は捕まっていたのです。

お内仏に座るとは、これを形として表しています。仏さまを安置するだけではただの飾りです。私が仏さまの前に座ってこそ、仏さまはそのはたらく場所を得ると同時に、仏さまの前で私は私にはじめてなり得るのです。（浄泉寺若院・釋亜世）

令和7年(2025年)年忌表

ご法事（年忌法要）は、亡き人をご縁に仏さまの教えを今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和6年(2024年) 亡
三回忌	令和5年(2023年) 亡
七回忌	平成31/令和元年(2019年) 亡
十三回忌	平成25年(2013年) 亡
十七回忌	平成21年(2009年) 亡
二十五回忌	平成13年(2001年) 亡
三十三回忌	平成5年(1993年) 亡
五十回忌	昭和51年(1976年) 亡

<発行元・問い合わせ>



真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

電話 0799-22-4798

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43

ホームページ <http://jyosenji.asei.info>